

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

果樹カメムシ類の今後の発生について

本年の果樹カメムシ類については、多発生を予想しており、地域及び圃場間で差があるものの、7月6半旬頃から越冬世代成虫、8月3半旬頃から第1世代成虫が果樹園へ飛来し、被害を及ぼす恐れがあります。

については、下記事項を参考に防除を徹底するよう指導をお願いします。



チャバネアオカメムシ

記

1. 発生状況および今後の発生予想

1) 越冬世代成虫

(1) 予察灯調査（5月1日～7月20日）

県内3カ所（小城市、佐賀市、太良町）に設置した予察灯における果樹カメムシ類の平均誘殺数（5月1日～7月20日）は平年より多く、8月2半旬頃まで越冬世代成虫の発生量は多いと考えられる。（表1）。

(2) ヒノキ毬果の口針鞘（吸汁跡）数

7月20～24日に県内15地点で調査した結果、1毬果当たりの平均口針鞘数が9.3本（平年1.0本）と平年より多く、最も多い地点では19.3本の地点が認められた。このことから、今後早い地域では7月6半旬頃からヒノキを離れ果樹園へ飛来すると考えられる（写真1、2、表2）。

〔※ 果樹カメムシ類によるヒノキ毬果の口針鞘数が1果当たり25本を超えると、果樹カメムシ類がヒノキ毬果より離脱するとされている。〕

2) 第1世代成虫

ヒノキ毬果における幼虫の寄生数を調査した結果、寄生数は21.2頭（前年7.1頭）と若～中齢幼虫を中心に多数の寄生が認められ、8月3半旬以降に第1世代成虫の発生が多くなると考えられる（表2）。

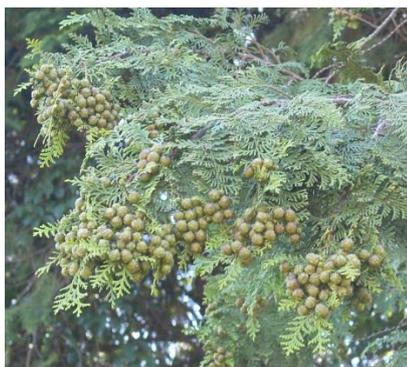


写真1 ヒノキ毬果



写真2 果樹カメムシ類の口針鞘

表1 予察灯(佐賀市、小城市、太良町)による果樹カメムシ類の平均誘殺数

	本年	平年	前年
平均誘殺数(頭) (5月1日～7月20日)	1673	376	480

※平年値は過去10年間の平均

表2 ヒノキ毬果における果樹カメムシ類寄生虫数及び口針鞘数(調査日:7月20～24日)

No.	調査地点	ヒノキ毬果における寄生虫状況 ¹⁾			ヒノキ毬果 ²⁾ 着果程度	口針鞘数 ³⁾ 7月下旬	離脱予想時期 ⁴⁾ (各調査日から算出)
		成虫	幼虫	合計			
1	上峰町	7	6	13	やや少	12.7	8月1半旬頃～
2	神埼市	1	5	6	やや少	12.5	8月1半旬頃～
3	小城市	11	33	44	多	10.1	8月3半旬頃～
4	多久市	1	13	14	やや少	16.1	7月6半旬頃～
5	唐津市1	1	18	19	中	19.3	7月6半旬頃～
6	唐津市2	14	41	55	やや多	11.0	8月2半旬頃～
7	伊万里市1	11	13	24	中	3	8月6半旬頃～
8	伊万里市2	11	32	43	中	4.1	8月6半旬頃～
9	伊万里市3	2	3	5	中	0.4	9月2半旬頃～
10	白石町	1	9	10	中	4.8	8月6半旬頃～
11	鹿島市1	8	30	38	やや多	4.4	8月6半旬頃～
12	鹿島市2	3	25	28	中	11	8月2半旬頃～
13	鹿島市3	1	27	28	やや少	10.5	8月2半旬頃～
14	太良町1	4	51	55	やや少	16.3	7月6半旬頃～
15	太良町2	6	12	18	やや多	4.4	8月6半旬頃～
	平均	5.5	21.2	26.7	中	9.3	8月3半旬頃～ ⁵⁾
	平年	-	-	8.9		1.0	-
	前年(H29年)	6.3	7.1	13.4		1.8	-

1)たつき落としによる調査

2)ヒノキ毬果着果程度:福岡農総試の達観調査法(一部改変)に基づいて調査

- ・極少:ほとんど結実が見あたらない
- ・少:梢頭部にわずかに結実
- ・やや少:梢頭部から中央部周辺にかけて結実した樹と梢頭部にわずかに結実した樹が混在
- ・中:梢頭部から中央部付近にかけて結実
- ・やや多:梢頭部から最下部にかけて全面的に結実した樹と全面的に結実しない樹が混在
- ・多:梢頭部から最下部にかけて全面的に結実
- ・極多:梢頭部から最下部にかけて全面的にブドウ状に結実
- ・極多:梢頭部から最下部にかけて全面的にブドウ状に結実

3)口針鞘数が1果当たり25本を超えるとヒノキ毬果が餌として不適となりカメムシがヒノキ毬果より離脱する傾向

4)各調査日における口針鞘数から離脱予想時期(25本/果に達する時期)を推定

5)離脱予想時期の県平均は、各調査日および口針鞘数の平均値により算出

※ヒノキ毬果における寄生虫数、口針鞘数は地点による差が大きいため、各調査地点の結果が当該市町全体の状況を示すものではない。

2. 防除対策

- 1) 飛来状況は地域や園地により大きく異なるため、園内外をこまめに見回り早期発見に努める。
- 2) 本虫は、果樹園へ侵入した後、集合フェロモンで同種を大量に呼び寄せ被害を大きくする。このため、本虫の果樹園への飛来を認めたら、早急に殺虫効果・吸汁阻止効果が高い合成ピレスロイド系薬剤やネオニコチノイド系薬剤による防除を実施する（表3）。
- 3) 薬剤散布の際は、周辺作物への飛散を防止するとともに、収穫前使用日数及び使用回数等の安全使用基準を遵守する。
- 4) 台風襲来等の強風後は、本虫が果樹園に飛来する恐れがあるので十分に注意する。
- 5) 防風樹であるスギ、ヒノキ、サンゴジュなどの結実した実は刈り込むなどして除去する。また、本虫は樹高の高い樹木に一度飛来して、その後果樹園に飛来する傾向があるので、防風樹等は必要以上に高くないように剪除する。
- 6) 施設栽培では、開口部に防虫ネット（4ミリ目以下）を設置する。
- 7) 今後の発生状況については、農業技術防除センターが発表する本虫に関する情報を参考にする（<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>）。

表3 果樹カメムシ類に登録のある主要薬剤

【かんきつ】

IRACコード	系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数	備考
3A	合成ピレスロイド	テルスター水和剤	1,000～2,000倍	収穫前日まで	3回以内	かんきつ
		マブリック水和剤20	2,000～4,000倍	収穫45日前まで	2回以内	かんきつ (みかんを除く)
				収穫21日前まで		みかん
		MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	収穫14日前まで	2回以内	かんきつ
ロディー乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	4回以内	かんきつ		
4A	ネオニコチノイド	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	かんきつ

【なし】

IRACコード	系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数
3A	合成ピレスロイド	アグロスリン水和剤	1,000～2,000倍	収穫前日まで	3回以内
		スカウトフロアブル	1,500倍	収穫前日まで	5回以内
		テルスター水和剤	1,000～2,000倍	収穫前日まで	2回以内
		MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	収穫14日前まで	2回以内
4A	ネオニコチノイド	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	3回以内

【表3の続き】

【かき】

IRAC コード	系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数
3A	合成ピレスロイド	アグロスリン水和剤	1,000～2,000倍	収穫前日まで	3回以内
		テルスター水和剤	1,000～2,000倍	収穫14日前まで	2回以内
		MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	収穫14日前まで	2回以内
4A	ネオニコチノイド	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	3回以内

【キウイフルーツ】

IRAC コード	系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数
3A	合成ピレスロイド	アディオン乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	5回以内
4A	ネオニコチノイド	アルバリン顆粒水溶剤	1,000～2,000倍	収穫前日まで	3回以内
		スタークル顆粒水溶剤			
		アドマイヤーフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	2回以内

【ぶどう】

IRAC コード	系統名	農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数
4A	ネオニコチノイド	ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍	収穫前日まで	3回以内
		スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
		アルバリン顆粒水溶剤			

※ 登録は平成30年7月30日(月)現在。

※ 農薬を使用する際は、必ずラベルを読んで、使用できる作物であるか、使用濃度、使用量、使用時期は適切か、使用回数は定められた回数を超えていないか等を確認する。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840-2205 佐賀市川副町南里1088
TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085